

令和4年度葛飾区行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第2回全体会
開催日時	令和4年8月25日(木) 午前10時00分から正午まで
開催場所	葛飾区役所 新館7階701、702会議室
出席者	【委員16人】 大石会長、小松原委員、鈴木委員、大山委員、折登委員、菅原委員、大伴委員、倉持委員、岩田委員、大友委員、上村委員、谷本委員、千田委員、服部委員、荻野委員、長谷川委員 【区側8人】 区長、事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員5人)

会議概要

1 大石会長挨拶

2 答申内容の確認

(第一分科会総括、答申内容の読み上げ後、質疑応答)

A 委員：「雇用・就業マッチング支援事業」における評価結果の今後の方向性に記載している、障害者の「害」の字はひらがなにしたほうが良いのではないか。

事務局：「害」の字は、ひらがなに修正する。

B 委員：「認知症事業の充実」における実績状況のコストについて、投資しているコストが少ないと判断した理由は何か。

会長：国や都の補助金を受けて事業を実施しており、不足している部分を一般財源で補っている。事業を充実するために、投資する区の一般財源を増やすべきではないかという意味で記載している。

C 委員：この事業は、もの忘れ予防健診を区民に受診してもらうことを主眼としたものだが、健診自体は委託して実施しており、区では、その健診の案内や、パンフレットの配布などを行っている。国や都から受けている補助金は上限額まで支給されているので、今後、事業をさらに充実させるためには、区の一般財源を増やす必要があるということだった。実績状況のコストの文言は、表現の工夫が必要だと思う。

B 委員：「投資しているコストが少ない」という文言の前に、「区自体」という文言を追加してはどうか。

会 長：そのように修正する。

(第二分科会総括、答申内容読み上げ後、質疑応答)

D 委員：防災に関しては、町会も意識が高く様々な活動をしているが、ケーブルテレビを制作していることは初めて知った。どのくらいの費用がかかっているのか。

E 委員：一つの番組を制作するために、毎年 50 万円から 60 万円費用をかけている。

D 委員：費用をかけている割には、区民はケーブルテレビについてほとんど知らないと思う。

F 委員：「防災の意識啓発」の評価結果の今後の方向性の部分で、「ケーブルテレビの制作費用で他の事業の充実や拡充を検討してはどうか」と記載してあるにも関わらず、「ケーブルテレビの内容を録画したDVDは、小・中学校の授業のなかで活用していくべきである」となっており、矛盾しているように見えるのではないか。

E 委員：「制作したケーブルテレビの内容を録画した」の前に、「すでに」という文言を追加した方が分かりやすいかもしれない。

事務局：そのように修正する。

C 委員：Youtube の動画は、誰が制作しているのか。

事務局：ケーブルテレビ用に制作した番組を、Youtube で流している。

C 委員：Youtube のためだけに、動画を制作しているわけではないということか。

事務局：そのとおりである。

D 委員：「学校施設を活用した放課後子ども支援事業」について、わくわくチャレンジ広場の児童指導サポーターの報償費はずっと上がっていない。また、委託してわくわくチャレンジ広場を実施している学校もあるが、本来の事業目的は、地域の住民が子どもを見守ることだと思うので、委託で実施する必要はないと思う。

G 委員：委託で実施するならば、学童に任せの方が良いと思う。高校生や大学生に児童指導サポーターを依頼することも素晴らしいが、地域の住民が、子どもたちを知ることが事業目的だったはずである。その点も良く考えて、事業を実施すべきである。

事務局：今後の方向性としては、委託ではなく、高校生や大学生の児童指導サポーターの確保も視野に入れながら、地域の見守りを基本として、事業を展開していきたいという答申でまとめている。

D 委員：わくわくチャレンジ広場と学童を管轄している所管課が違うので、所管課を一本化することも検討してほしい。

事務局：わくわくチャレンジ広場は子どもたちの遊び場の提供を含めた放

課後の見守り、学童は子どもの監護を目的としており、事業の目的が違うため、所管課が分かれている。学童は、児童福祉法に基づいて設置しており、公立の学童は、子育て支援部が所管している。一方、学校内に設置している私立の学童は教育委員会事務局の放課後支援課が所管している。所管課が分かれていることは、区としても課題があると認識している。

- A 委員：今後の方向性の部分で、「空き教室の活用は今後も継続すべきである」と記載してあるが、その意図は、学童保育クラブの待機児童の受け皿を増やせば、わくわくチャレンジ広場に参加する子どもが減る。参加する子どもが減れば、児童指導サポーターの負担も減るので、委託運営から移行できるのではないかという意味だと思う。「学童保育クラブの受け入れを増やすために」という文言を追加してはどうか。

事務局：その意見も踏まえて修正する。

3 政策経営部長挨拶

4 区長への答申

(会長から区長へ評価結果を答申)

5 区長挨拶(要旨)

新型コロナウイルスが猛威を振っている時期にも関わらず、熱心に議論をしていただき、大変感謝している。委員会で議論された意見を活かして、区民のためになる施策を今後も進めていきたい。

新型コロナウイルスの感染状況は大変厳しい状況が続いている。区民の皆様が安心して治療を受けられるように今後も努力していきたい。

6 区長と各委員の懇談

7 写真撮影

8 行政評価の今後の日程について

(事務局より今後の日程について説明、事務連絡)

9 閉会